

## 2008/9/10～11 「ファカルティ・ディベロッパー入門講座」(愛媛大学主催)への派遣



### 研修報告: CETL 副センター長 / 通信教育部准教授 西浦 昭雄

#### 【講座の概要】

同講座の目的は「初めてFDを担当することになった教職員(FDer)が職場で効果的なFDプログラムを実施するために必要な知識と技術を身につけること」であるとし、受講者の到達目標として次の5点を掲げていた。

FDerが最低限知っておくべき知識を説明することができる

FDプログラムのニーズを把握することができる

FDプログラムを作成することができる

研修当日にFDerがすべきことを説明することができる

研修の評価方法を述べるすることができる

一般参加者は33大学59名の教職員であった。第1日目は最初に主催者・共催者挨拶の後、主催の愛媛大学教育・学生支援機構 / 教育企画室の佐藤浩章氏が同企画室作成の『FDプログラムの開発・実施・評価』に沿いながらFD概論、プログラムの立案、プログラム作成と研修技法の選択・手順といった順番で解説した。その後、大学別でグループワークに取りかかった。課題は「FD実施要項またはFDプログラムの体系化マップを選択」であったが、一緒に参加した本学教育学部の鈴木教授と相談してFD体系化マップを作成することにした。その理由は、本学ではFDフォーラム等が定着し、さまざまなFDの取り組みがなされている中で、それらのFD活動がどのように位置づけられるかを整理する方が有用であると考えたためによる。5つのレベル段階は愛媛大学のマップをモデルに、本学の坂本教育学部長のFD概念を参考に「教育者としての成長」「研究者としての成長」「大学組織としての成長」という3層から整理しようと試みた。その後、全体で再度集まり、佐藤氏をはじめ同企画室の小林直人氏や野本ひさ氏をパネラーに「FD担当者お悩み相談」として、FD担当者が抱える課題について全体討議を行った。18時半からの情報交換会では各大学

の取り組みや課題について意見交換をした。

第2日目は、最初に佐藤氏が研修評価について解説をした後、再びグループワークに入り、FD体系化マップの作成作業を継続し、佐藤氏から個別アドバイスも受けた(別添ファイルを参照)。13時15分より「ポスターセッション」とし、各グループの作成物を展示、付箋にコメントをつけた。本学の作成物に対しては「教員・組織等それぞれの立場でプログラムを考えてあり、幅広く対応できそうである」「研究者としての側面を取り入れており、教育・研究の双方の発展が期待できると思いました」「大学の教員の仕事の3側面にわたり体系化していることが興味深い」「取り組みの具体的なイメージがわくマップになっています」などポジティブな評価ばかりであった。14時より全体で振り返りのセッションをした後、受講者に「修了証書」が贈られた。

#### 【参加しての感想】

FD担当者の役割について順を追って解説していただいたお陰で、本学のFD活動の課題や自身の役割について考察するきっかけとなった。今後の課題として感じたことを列挙すると次の4点になる。第1に、FDの定義についてである。佐藤氏は「教育・学習効果を最大限に高めること」がFDの目的であるとしながらも「各大学なりにFDの定義を明確にすることが大切だ」と強調していた。本学の建学の理念にそったFD定義を明確化し、教職員間で共有化していることが大切であると感じた。第2に、FD体系化マップの共有化である。今回はグループワークとして鈴木教授と持参したCETLクオターリー3年分を参照しながら本学FD活動を整理しようと試みた。本講座に参加し、本学が他大学と比べて遜色のないほどの(部分的にはかなり先進的な)FD活動を展開していることが確認できたが、個別活動のFD活動全体での位置づけとなると十分に整理できていないように感じた。FD体系化マップを作成し、共有化していくことは有益であると思える。第3に本学のFD担当者向けへの入門講座の自前化である。すぐには完成度が高いものは提供するのは難しいとしても、試行錯誤しながらも講座を企画・運営する中で本講座のようにFDerを育成していくことになると感じた。最後に、それとも関連するが、年間を通じてFDに関するスキルアップを可能にしていくような講座の設置である。本学のFDフォーラムでは5~6の分科会を設置し、多様な参加者ニーズに対応することが定着している。これは効果もある反面、一度に一つの分科会しか参加できないなどの制約や年1回の大会のようになってしまい「非日常的」に陥ってしまうという側面がある。愛媛大学では定期的に教職員向けのスキルアップ講座を設け、4月の段階で担当者やスケジュールを明示している。

この講座に参加したことを活かし、少しずつでも本学FD活動に資するように努力していきたい。